令和8年度 第2回 北海道函館聾学校 学校運営協議会 議事録

1. 開催概要

日時　令和8年（2026年）11月11日（水） 10:00〜11:30
会場　北海道函館聾学校 視聴覚室 ほか
進行　教頭　　記録　事務局
出席者（敬称略）
【学校運営協議会委員】6名
【事務局】４名
【オブザーバー】2名（渡島教育局）

欠席者
【学校運営協議会委員】4名

2. 議事要旨

（1）開会および校長挨拶

- 校長 挨拶
- 先日の学習発表会への参観および日頃の支援に対し、関係者・地域住民へ感謝を表明。昨年度の創立130周年記念事業を経て、地域に愛される学校であることを再実感した旨を報告。
- 来校者から「子供一人一人が主役として輝いている」「教職員が一人一人に寄り添っている」との高い評価を得たことに触れ、個の成長にフォーカスした指導実践の成果であると説明。
- 130年の歴史と伝統・文化に誇りを持ちつつ、変わらず大切にすべき軸を守りながら、地域・保護者・同窓会・後援会と協働して新しい時代に即した価値を創造していきたい旨の抱負を述べ、本日の熟議における積極的な意見交換を求めた。

（2）参加者確認および日程説明

- 教頭（司会）より連絡
- 出席者の確認および欠席者の報告、オブザーバー2名の紹介。
- 本日のプログラムについての説明。

（3）授業参観および振り返り

授業参観後、会場にて以下のとおり振り返り・補足説明を実施。

- 幼稚部 ：春（入学当初）と比較し、落ち着いてやり取りできる時間が増加。子供の気持ちを大切にしながら言葉をのせていく指導の成果と、成長の様子を確認。
- 小・重複学級 ：児童個々の実態に合わせた指導を展開。参観者の関わりの中で児童が満足感を得て意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。

- 小中通常学級 ：他校と同様の教科書・学習内容を使用。手話を交えた指導や視覚的教材（手掛かり）を工夫して活用する一方、学年に応じて視覚的支援を調整するなど、学習目的に応じた指導を実施。

（4）報告・説明事項

① 学校いじめ防止基本方針について

- 資料に基づき説明。からかいやいじりなどの兆候も見逃さず、日々コミュニケーションを図り組織的に対応する方針を確認。
- 10月に実施した児童生徒対象のいじめ調査において、「嫌な思いをしたことがある」と回答した児童生徒は0件であった旨を報告。今後も未然防止と組織的対応を継続。

② 前回の協議会以降の教育活動（6月以降）について

- スライドをもとに各学部の教育活動の紹介。

3. 意見交換および熟議

会長の進行のもと、3つのテーマについて意見交換を実施。

テーマ①：学校に対して協力できることのアイデア

- 地域の方々の様々な得意分野を活かし、授業の中で子供たちと一緒に作品作りを行う交流機会の創出（地域にとっても楽しみとなる協働の提案）。
- 避難訓練での消防車体験のように、様々な職業に触れられる体験機会の創出（職業観の育成と視野の拡大）。
- 防災士としての知恵（新聞紙スリッパ作り等）や、町会内の様々な人材（ものづくり、絵画、農業・牧場経験者等）を活用した体験活動の協力。職業体験に限らない日常的な体験の積み重ねの重要性。
- ジュニアオーケストラなどの見学・鑑賞体験や、手話を通じた多様な障害種の子供たちとの交流。校内で修得した学びを生活に活かす取り組みの推奨。
- 街を元気にする4つのベル（食べる・遊べる・喋る・学べる）の視点による地域交流。所属する「函館天体観測クラブ」による望遠鏡・モニターを活用した天体観測会の実施提案。函館出身のプロ歌手を活用した音楽・表現活動の連携提案。災害発生時における聾学校への具体的な支援準備体制の必要性。

【学校側応答（校長）】：地域には豊かな教育資源があることを再認識。天体観測やプロ歌手の活用、防災連携など貴重な提案に感謝。実質3年目を迎え登録者90名となった「ボランティアバンク」を整理・活用し、地域で子供を育てる体制を強化していきたい。

テーマ②：聾学校が地域や協議会のためにできること

- 近隣小学校（深堀小・駒場小）への手話出前授業の継続発展。地域住民向けの手話教室（児童生徒が講師を務める形）の開催、作文・スピーチなど児童生徒の学習成果を地域へ発表する機会の創出。

- ボランティアバンクの定着や近隣保育園・小中学校との良好な連携体制の継続・充実。
- 先生方が持つ子供への言葉掛けや関わり・指導のノウハウを、一般の保護者や特別支援学級の保護者へ共有する機会の創出。
- 学校内で当たり前とされている指導技術やノウハウは、地域住民や保護者にとって貴重な「宝」であり、地域へ積極的に発信・還元してほしい旨の期待。

【学校側応答（校長）】：教職員の指導・配慮に対する温かい評価に感謝。児童生徒が主体的に外部と関わり、互いに成長できるWin-Winの関係構築を目指す。

テーマ③：学校への要望・意見・期待すること

学校運営全般や教職員環境に関する意見・要望を協議した。

- 教員と児童生徒の安心感・居心地の良さが学びの土台。教員が高いモチベーションで働ける環境整備の最優先を要望。
- 幼稚部における児童の笑顔と、一人一人の実態に合わせてコミュニケーションを深める教員の指導力への感銘。
- 教員が無理なく時間内で健康的に働ける環境維持の重要性。
- 手話を用いた視覚的・心理的に配慮された教育環境の継続に対する期待。
- 「ウェルビーイング＝ご機嫌な状態」と定義し、教職員がご機嫌でいられることが子供のご機嫌につながる旨を強調。必要な予算確保も含めた道教育委員会側の支援策への期待。

【学校側応答（校長）】：教職員の働く環境や健康に対する委員からの温かい心遣いに深く感謝。いただいた意見を今後の学校経営・運営に積極的に活用していく。

4. オブザーバー感想

・教員と子供たちが安心して信頼関係を築き、充実した教育活動を行っている　様子を確認。
・机上の学びに留まらず、体験活動を通じて子供が成長する重要性を指摘。地　域とのパートナーシップによる体験活動の更なる充実に期待。

・地域との良好な関係 ：学校が積極的に開かれ、地域から「協力したい」との　声が自然と上がる相互の信頼関係を高く評価。
・リアルな避難訓練 ：津波想定で深堀中学校3階への避難など、実践的でリア　ルな防災教育の取組を評価。
・働き方改革への深い理解 ：運営協議会委員から教員の働き方改革や過労防止に対する理解・助言が出される体制の素晴らしさを絶賛。

5. 諸連絡および閉会

- 次回開催予定 ：令和9年（2027年）2月12日（金） 13:00〜
- 栄養教諭からの提案に基づき、給食の試食・提供の機会も含めて検討予定。詳細は改めて案内。

- 閉会 :事務局より閉会の挨拶を行い、全日程を終了。